

宇宙ビジネスの全体促進と 産業エコシステム形成にむけた取り組み

一般社団法人SPACETIDE

事例の概要

2015年の創設以来、業界横断活動を実施

①多様な人を繋ぐ

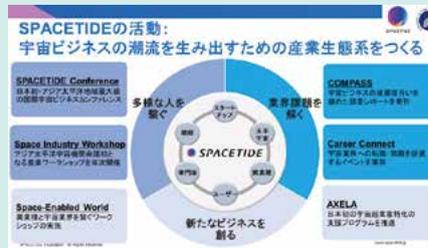
- ・SPACETIDE Conference:
日本発となる国際宇宙ビジネスカンファレンスを年次開催
- ・Space Industry Workshop:
アジア太平洋宇宙機関会議初となる産業ワークショップを年次開催

②業界共通課題を解く

- ・COMPASS:
宇宙ビジネスの進展度合いを纏めたレポートを発刊
- ・Career Connect:
宇宙業界への転職・就職を促進するイベントを実施

③新たなビジネスを創る

- ・AXELA:
日本初の宇宙起業家支援プログラムを推進
- ・Space-Enabled World:
異業種と宇宙業界を繋ぐワークショップの実施



©SPACETIDE Foundation All Rights Reserved

受賞のポイント(選考委員講評)

日本の宇宙産業のコミュニティ形成や、異業種との交流、起業促進、人材流動化促進、業界データ調査等に大きく寄与し、宇宙ビジネスの促進や、宇宙産業のエコシステム形成に貢献している点が評価できる。

また、国際的な活動を通して日本の宇宙産業の国際プレゼンスの向上や国際連携等にも貢献している点が評価できる。



©SPACETIDE Foundation All Rights Reserved

具体的成果等

1. 宇宙開発利用の新たな領域創造への貢献

宇宙ビジネスに関わる全てのリーダーが一堂に会する場を創るために、2015年から日本初の宇宙ビジネスカンファレンス[SPACETIDE Conference]を年次開催。政府、大手企業、スタートアップ等に加えて、異業種企業が多数参加する稀有なコミュニティを創ってきた(2023年の参加者1,200名の47%が宇宙業界ではない25業種から構成)。20か国から参加者が集まるなど世界的な注目も高まっており、またSPACETIDEの活動に後続してSPACE WEEKや北海道宇宙サミットなど多数の宇宙イベントが近年立ち上がっている。

また、新たな宇宙ビジネスプレイヤーを継続的に生み出すために、日本初の宇宙起業家支援プログラム[AXELA]を2021年より立ち上げ、内閣府主催のS-Booster受賞者のフォローアップも含めて、アイデア創出からシード投資までの支援を実施。これまでに14社に支援を行い、投資家からは「AXELA卒業企業であれば間違いないので絶対紹介頂きたい」との評価が寄せられている。

加えて、宇宙業界全体の人的基盤強化を解決すべく、2023年より経済産業省と協力してキャリアイベント「Career Connect」を立ち上げ、今年のイベントでは20社がブースを構築350名が参加、インターンや面接につながるなど実績が出始めている。

2. 宇宙開発利用市場の拡大への貢献

「SPACETIDE Conference」は規模成長とグローバル化を実現。2015年の第1回カンファレンスは登壇者:20名、参加者:400名、協賛&後援機関:1だったが、2023年の第8回カンファレンスは登壇者:90名、参加者1,200名、協賛&後援機関:40となり、20か国から参加者が集まって、全セッションを英語で行うなど、日本で開催される唯一の国際宇宙ビジネスカンファレンスに成長。また収益面でも1回のカンファレンス売上は4,400万円を超えるなど急成長をしている。

また、2019年に立ち上げた「Space Industry Workshop」は、アジア太平洋宇宙機関会議(APRSAF)の公式コンテンツとして、同地域の政府機関と民間企業の連携加速の場として利用市場拡大に貢献。2019年名古屋、2020/2021年はリモート、2022年はベトナム、2023年はインドネシアで開催。今年は20か国から270名の方が参加をするなど成長と国際化が進展。

こうした活動の結果から、2023年にはIAF(国際宇宙航行連盟)への加盟が正式に認められました。宇宙ビジネス振興を目指す団体としては日本初の加盟となり、IAF加盟を機に、各国の企業や業界団体との連携を加速し、グローバル市場への進出を進めている。

3. 経済・社会の高度化への貢献

経済・社会の高度化への貢献のためには、ユーザーとなりえる宇宙業界の外の方々に宇宙の価値を理解いただき、共に課題解決をすすめていくことだと考えており、参加者の47%が異業種となる宇宙カンファレンスを実現し、農業×宇宙、エネルギー×宇宙、防災×宇宙、環境×宇宙といった課題解決型のパネルディスカッションを国内およびアジア各国で実施。

このアプローチを先鋭化させて、相手業界のハブとなる団体とSPACETIDEが連携することで双方のコミュニティが出会い、課題解決を議論するワークショップ「Space-enabled

World」を定期開催、これまでに700名以上が参加。特に、環境エネルギー分野ではU3インベーションズとCIC Tokyoと連携したコミュニティを形成して継続的な議論を深めるとともに、今後は防災や農業などに横展開する予定。

また、安全保障と宇宙ビジネスの連携も日本にとって大きなテーマであり、虎ノ門ヒルズに拠点を構えた航空幕僚監部の宇宙協力オフィスとの連携を通じて、カンファレンスにおいて宇宙安全保障の議論を取り込んでおり、さらに今後は安全保障×宇宙ビジネス特化したイベントも視野に入れている。

4. 技術への貢献

非営利団体であるため直接的な研究開発は行っていないものの、優れた技術系スタートアップ企業の成長支援を通じて、業界全体の研究開発に貢献。

具体的には、日本初となる宇宙スタートアップ企業に特化したアクセラレーションプログラム[AXELA]を通じて、2021年より計9社の宇宙技術スタートアップ企業(日本6社、海外3社)の技術開発と成長を支援(プログラム提供のためにフォースタートアップス、JAFCO、Beyond Next Ventures、JETRO等と連携)。

対象企業はS-Boosterの受賞者および弊社独自に発掘したスタートアップであり、例えば、Space quarters(宇宙溶接技術)、LETARA(ハイブリッド推進システム)、STONY(宇宙空間での3D造形技術)LEET Carbon(衛星データ利活用)などに、共同研究開発パートナーや製造パートナーのマッチング、さらには技術実証や市場開拓の支援を実施。またStar Signal Solutions(宇宙状況監視技術)は、AXELA卒業後にJAXA認定ベンチャーとなった。

今後はアジア太平洋地域への拡大や顧客となる異業種業界との接続なども支援内容に取り込み、世界で勝てるスタートアップの育成に取り組む。

5. 国民理解の増進・人材育成への貢献

社会に宇宙ビジネスの魅力を伝えるために、「SPACETIDE Conference」にはNewsPicks、Forbes、Wired、日刊工業新聞、日経宇宙プロジェクトなどメディア企業がパートナー参画(2023年は17社)。加えて、地方連携も重視しており、13の都道府県でイベントを開催、登壇するなど全国に宇宙ビジネスの輪を広げている。

また、独自の宇宙ビジネスレポート「COMPASS」は宇宙ビジネスの現在地が定量的にわかる資料として累計4,000部がダウンロードされ、特に投資動向や企業数などのインデックスはNHK、日経新聞、読売新聞などの幅広いメディアで引用されている。

次世代育成では、累計1,000名超の学生が「SPACETIDE Conference」に参加し、またキャリアイベント「Career Connect」では学生団体の宇宙就活や宇宙開発フォーラムと連携して就職支援をしている。加えて、SPACETIDE自体にも大学生のプロボノメンバーが参加しており、その経験を元に、宇宙業界へ就職したメンバーが複数いる。

小中学生に対しては、コロナ禍に自宅待機を強いられた環境でも宇宙を楽しめる場として、宇宙飛行士や起業家と連携して「おうちで宇宙」というYouTube番組を配信し、4万回超の視聴回数を得た。

